

平成 24 年度事業報告および決算

平成 25 年 5 月 27 日



北陸経済連合会

【事業活動報告】

災害時、命を守り、代替補完機能を担うための社会インフラ整備 [社会基盤整備委員会]

1. 北陸新幹線の建設促進に向けた支援・要望活動

- (1) 敦賀延伸の工期短縮に向けた取組み
- (2) 大阪までの全線整備に向けた取組み

実施内容	効果の確認・評価
<ul style="list-style-type: none">・政府・与党等に対する要請活動（8回*）・整備新幹線着工を国交相が認可（6/29）、起工（8/19）・「北陸新幹線 金沢—敦賀間の早期開業による経済効果」調査（H24.11公表）・「敦賀以西のルートごとの経済波及効果」調査（H24.11～）	<ul style="list-style-type: none">・「金沢—敦賀間の早期開業」調査により、敦賀延伸前倒しによる効果を、国の想定条件を用いて定量評価し、<u>合同中央要請等でアピール</u>できた。・「敦賀以西のルート」調査については、平成25年3月末に公表された「第5回全国幹線旅客純流動調査」をベースに、調査に取り掛かっている。

* 政府・与党等に対する要請活動

- ・北経連単独（8/8 政府要望、1/7 緊急提言）
- ・西経協合同（10/26）
- ・建設促進同盟会 合同中央要請（6/5、11/13）
- ・総決起大会（5/21 富山県、6/5 東京、8/19 石川県、富山県）

2. 並行在来線の課題対策への支援

実施内容	効果の確認・評価
<ul style="list-style-type: none">・並行在来線対策協議会へ参加（富山県：5回、石川県：2回、福井県：1回）	<ul style="list-style-type: none">・JR西日本からの並行在来線の譲渡価格について、<u>実質無償化</u>で整った。・<u>今後は、並行在来線の利用促進</u>に向けた取組みや、<u>駅を中心とした街づくり</u>の調査研究活動を実施する。

3 . 高規格幹線道路の建設促進に向けた要望活動

実施内容	効果の確認・評価
・協議会等への参加を通じた提言活動（3回）	・一部に進展がみられるが、未だ北陸地域内の <u>ミッシングリンク</u> は解消されておらず、引き続き要望が必要。

4 . 港湾・空港の活性化

(1)北陸の港湾連携の推進

実施内容	効果の確認・評価
<ul style="list-style-type: none"> ・北陸地域国際物流戦略チーム「広域バックアップ専門部会」への参画（12/12、3/8） ・北陸港湾の利便性拡大に向けての勉強会開催（9/7、12/18） ・第13回北陸・韓国経済交流会議「物流・人流専門分科会」（10/18） ・「北陸3港利用促進セミナーin東京」の開催（2/4） 	<ul style="list-style-type: none"> ・物流代替補完機能に関する<u>具体的施策</u>の検討がスタートできた。 ・北陸・韓国双方の港湾関係者が<u>一堂に会して、意見交換</u>でき有意義だった。 ・今後も<u>参加希望が85%</u>。 以上、継続開催する。

(2)北陸新幹線開業後の空港の利活用に向けた取組み

実施内容	効果の確認・評価
・「北陸における空港の利用促進に関する調査・研究」について調査実施（H24.6～H25.3）	・国内外の航空路に関する資料を収集し、整理することができた。

． 広域観光推進 [広域観光推進委員会]

1 ． 北陸の認知度向上、魅力・満足度向上に向けた取組み

[関連組織：北陸イメージアップ推進会議]

(1) 旅行社等と連携した北陸物語の充実、旅行商品化促進

実施内容	効果の確認・評価
<ul style="list-style-type: none"> ・首都圏旅行社への「北陸物語」の PR、旅行商品化の働きかけ ・「北陸物語 vol.3」冊子発行（25 年 1 月） 	<ul style="list-style-type: none"> ・一般層を対象とした北陸の認知度向上に向けた取組みから、より具体的な、北陸に関心のある特定の層を対象としたセールスプロモーションに軸足を移行する。 ・「北陸物語」は、女子旅の企画など旅行社のニーズに合致したものと評価

北陸三県観光キャラバン（三県観光連盟・北経連・北陸広域観光推進協議会）
 ・旅行社（販売・企画部門）、出版社計 12 社

(2) 北陸物語 HP・Facebook を活用した情報発信

実施内容	効果の確認・評価
<ul style="list-style-type: none"> ・ Facebook 版（H24.6 配信開始） ・ Web 版の拡充 vol.2 の掲載、Facebook との連携 	<ul style="list-style-type: none"> ・読者は毎週平均延べ 2 万人に達したが、他地域の FB に比べ増加の余地がある。

(3) 都市圏でのイメージアップイベントの実施

実施内容	効果の確認・評価
<ul style="list-style-type: none"> ・都市圏の交通事業者と連携した北陸 PR イベントの実施（*） ・北陸フォーラム（東京 ホテルニューオータニ）の開催（H25.2） 	<ul style="list-style-type: none"> ・マスコミに 7 件取り上げられたが、更にパブリシティに改善の余地あり。 ・「北陸フォーラム」講演会に約 1100 名、懇親会に約 1500 名が参加。 北陸についての評価「高まった」が 94%

* 江ノ島電鉄と連携

意見交換会 開催 (H25.1)

「動く北陸フォーラム・北前船列車」実施 (H25.2)

マスコミ取り上げ 6件

京浜急行電鉄と連携

北陸の旬の食材を使った特別ランチ「北陸物語」の提供 (H25.2)

マスコミ取り上げ 1件

2. 北陸三県が一体となった広域観光の推進

実施内容	効果の確認・評価
<ul style="list-style-type: none">・北陸三県の官民共同による北陸 destinations キャンペーン実現への働きかけ・北陸広域連携プロジェクトチームによる広域観光事業および推進策検討	<ul style="list-style-type: none">・北陸三県共同での「JR destinations キャンペーン」の実施が決定・今後、北陸三県が設立する「実行委員会」に参加する。

3. インバウンド観光の推進

実施内容	効果の確認・評価
<ul style="list-style-type: none">・「西日本広域観光ルート検討会（西日本経済協議会）」への参画・昇龍道プロジェクト推進協議会（北陸信越・中部地方運輸局等）」へ参画	継続して参加

産業振興 [先端技術推進委員会]

1 . 産学官連携・知的資産経営の促進によるイノベーション創出の支援

(1) 北陸の中堅・中小企業と大手企業、大学・公設試験場等とのマッチング支援

実施内容	効果の確認・評価
<ul style="list-style-type: none"> ・個別マッチング件数 45 件 内、商談・共同研究等に繋がった 成果件数 21 件 ・展示会への出展 PR 等 (展示会 1 回・3 社) 	<ul style="list-style-type: none"> ・成果事例は着実に増加。 (H23:8 件 H24:21 件) ・さらに効果的なマッチング支援を行うため、<u>企業や大学との連携ネットワークの充実が必要</u>

(2) 人材育成・技術力アップのための情報交換会の開催

実施内容	効果の確認・評価
<ul style="list-style-type: none"> ・「高信頼システム情報交換会・北陸」 の実施（北陸先端大との共催） (6 回、延べ約 300 名参加) 	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートを踏まえ関心が高いテーマを選定し、<u>多数の参加者を確保</u>。 (平均参加者 H23:37 人→H24:50 人) ・参加者満足度も平均 <u>約 9 割と高い</u>(目標 7 割以上) ことから継続実施。

2 . 生産性・付加価値向上のための企業間連携の支援

(1) 新産業発掘のための講演会・セミナーの開催

実施内容	効果の確認・評価
<ul style="list-style-type: none"> ・講演会・セミナーの開催 (8 回、延べ約 500 名参加) 	<ul style="list-style-type: none"> ・先進技術の情報提供や意見交換が行われる<u>有効な交流の場</u>となっている。 ・参加者満足度も平均 <u>8 割強と高い</u>。 (目標 7 割以上)

(2) 新産業の創出に向けた調査研究の実施

〔北陸産業活性化センターとの共催〕

実施内容	効果の確認・評価
<ul style="list-style-type: none"> ・次世代ロボット研究会・北陸（4回開催） 	<ul style="list-style-type: none"> ・現場見学会や講演会等を通じて、<u>最新動向やニーズについて理解を深めた。</u> ・介護および農業分野において<u>具体的マッチングに繋がる</u>など、産学連携の貴重な場となった。
<ul style="list-style-type: none"> ・コンバートEV*事業化研究会（研究会2回、プロジェクト会議1回開催） <p>*：ガソリン車の電気自動車化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・駆動モーターの取替えにより、<u>通常車両と同等の運転性能を実現。</u> ・<u>技術開発や市場動向について情報共有</u>できた。 ・モーター、電池等の<u>価格が高く、事業化には時間を要する。</u>安全性の向上についても、更なる検討が必要。

3. 企業誘致の推進

〔関連組織：北陸国際投資交流促進会議〕

実施内容	効果の確認・評価
<ul style="list-style-type: none"> ・大規模展示会出展（2回：名古屋、東京） ・首都圏での「北陸フォーラム」開催（参加者：1,500名） 	<ul style="list-style-type: none"> ・展示会来場者アンケート：「<u>工場新設の計画あり</u>」等の有望回答 12 件が得られた ・「北陸フォーラム」アンケート：北陸についての評価「高まった」が94%

・ 国際経済交流 [国際交流推進委員会] [関連組織 ; 北陸 AJEC]

1 . 東アジア市場をターゲットにした企業の取組みの支援

(1) 会員ニーズに基づいた情報提供、調査事業の実施

実施内容	効果の確認・評価
<ul style="list-style-type: none"> ・「企業活動の国際化支援セミナー」の開催 (参加企業 11 社 計 9 回のセミナーを H24/6 ~ H25/1 にかけて開催) 	<ul style="list-style-type: none"> ・国際化を行う上での<u>手法や考え方など一定の成果</u>が得られた。 ・概ね満足とのアンケート結果があり、継続実施

2 . 東アジア諸国との経済交流の実施

実施内容	効果の確認・評価
<ul style="list-style-type: none"> ・海外視察会(台湾)の実施 ・第 13 回北陸(日本)・韓国経済交流会議の開催 (H24.10、福井市、参加者 : 北陸側 138 名、韓国側 48 名) 	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>最新の現地情報を北陸企業にフィードバック</u>することができた。 ・<u>韓国は重要な経済交流パートナーとして、今後も連携が必要</u>であるとの相互理解を深めることができ、継続実施 (全体会議の参加者のアンケート結果) <ul style="list-style-type: none"> ・参考になった : 69% ・今後も参加したい : 75%

地域力の向上に向けた取り組み [総合対策委員会]

1 . 国等に対する提言

(1)政策要望活動の実施

実施内容	効果の確認・評価
<ul style="list-style-type: none"> ・平成 25 年度 政府予算等に対する北陸経済界からの要望 (H24.8) ・安倍政権に対する北陸経済界からの緊急提言 (H25.1) ・西日本経済協議会要望 (H24.10) 	<ul style="list-style-type: none"> ・要望項目 54 <u>前進 16</u>、現状維持等 38 ・北陸新幹線の敦賀までの早期開業に向けた働きかけが必要。 ・原子力ゼロ政策の見直しが表明され、姿勢に変化はみられるが、具体的成果はなく、原子力運転再開のめどは立っていない。

(2)政党・行政当局との勉強会等の実施

実施内容	効果の確認・評価
<ul style="list-style-type: none"> ・中部経済産業局・近畿経済産業局との懇談会 (H25.3) ・北陸・近畿地方整備局、北陸信越・中部運輸局との懇談会 (H25.2) 	<ul style="list-style-type: none"> ・報告の時間を減らし、自由な意見交換・質疑応答の時間を増やしたことで、より有意義な懇談会となった。

(3)提言に向けた調査・研究活動の実施

実施内容	効果の確認・評価
<ul style="list-style-type: none"> ・欧州のエネルギー政策に関する視察 (H24.8) 参加者：19 名 視察先：ドイツ、フランス、デンマーク 報告書：3000 部作成 ・T P P に関する調査・研究 	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問活動により、<u>より実態を理解でき</u>、提言に生かすことができた。

2. 活力あふれる自立した北陸圏づくりの推進

(1) 第三次中期アクションプランのPDCAの実践による継続的な改善

実施内容	効果の確認・評価
・事業実績評価を踏まえ、H25年度事業活動方針を策定（H25.1）	

(2) 北陸圏広域地方計画の実現に向けた取組み、および国・3県の活動のフォロー

実施内容	効果の確認・評価
<ul style="list-style-type: none"> ・北陸圏広域地方計画協議会による総括評価 ・「北陸地域の防災支援・地域づくり検討会議」 	<ul style="list-style-type: none"> ・戦略目標の達成に向けて多角的な取組みが展開されているものの、今後更に<u>広域かつ多様な主体が連携した各種取組みや広域交通ネットワークの総合的整備が必要。</u>

3. 低炭素社会の形成に伴う環境ビジネス創出の支援

[関連組織：北陸環境共生会議]

(1) 低炭素社会の形成など、新たな課題への取組みの支援

実施内容	効果の確認・評価
<ul style="list-style-type: none"> ・環境セミナー・交流会の実施（5回、参加者480名） ・北陸三県環境フェアへの出展 実験教室等に、計680名が参加。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行政、企業、NPOとの交流は、今後の協働事業に役立つものと期待。 （参加者アンケート結果）「今後も参加したい」 86% ・三県の評価もあり、継続実施。

平成24年度 決算報告書

1. 貸借対照表 平成25年3月31日現在

(単位:円)

借 方		貸 方	
科 目	金 額	科 目	金 額
現金・預金	34,241,650	西経協引当金	2,000,000
敷金(北国不動産)	1,343,200	創立50周年事業引当金	5,500,000
		北陸新幹線開業 関連事業引当金	2,000,000
		情報機器等整備引当金	1,000,000
		退職給与引当金	3,400,000
		敷金(北国不動産)	1,343,200
		未払金	3,016,900
		納税預かり金	142,870
		剰余金	17,181,880
合計	35,584,850	合計	35,584,850

2. 収支計算書 平成24年4月1日から平成25年3月31日まで

(単位:円)

借 方		貸 方	
科 目	金 額	科 目	金 額
会費収入	76,660,000	事業費	45,536,099
協力金	700,000	会議費	2,594,913
雑収入	70,691	人件費	10,874,766
引当金戻入	-	事務費	18,061,731
		引当金	4,200,000
前年度繰越金	21,018,698	剰余金	17,181,880
合計	98,449,389	合計	98,449,389

平成24年度 北経連 決算

(予算対比)

(収入の部)

(単位:円)

	平成24年度		差引(B-A)	摘 要
	予算額(A)	決算額(B)		
会費	76,770,000	76,660,000	▲ 110,000	
協力金	700,000	700,000	0	
雑収入	35,000	70,691	35,691	
引当金戻入	-	-	-	
前年度繰越金	21,018,698	21,018,698	0	
合計	98,523,698	98,449,389	▲ 74,309	

(支出の部)

(単位:円。摘要は万円。)

	平成24年度		差引(B-A)	摘 要 (万円未満 切り捨て)
	予算額(A)	決算額(B)		
事業費	47,260,000	45,536,099	▲ 1,723,901	
委員会活動費	21,000,000	20,842,682	▲ 157,318	<ul style="list-style-type: none"> ・ 総合対策委員会 631万円 ・ 社会基盤整備委員会 414万円 ・ 先端技術推進委員会 504万円 ・ 広域観光推進委員会 153万円 ・ 国際交流推進委員会 336万円 ・ 広報・組織基盤委員会 44万円
連携活動費	26,260,000	24,693,417	▲ 1,566,583	<ul style="list-style-type: none"> ・ 会員懇談会等 529万円 ・ 他経済団体との懇談会等 416万円 ・ 行政との懇談会 173万円 ・ 支援団体への支援(北陸AJEC等) 680万円
会議費	2,710,000	2,594,913	▲ 115,087	
人件費	10,900,000	10,874,766	▲ 25,234	プロパー2人。派遣1人。ほかは人件費・出向元もちによる出向社員。
事務費	20,790,000	18,061,731	▲ 2,728,269	
引当金	2,200,000	4,200,000	2,000,000	<ul style="list-style-type: none"> ・ 北陸新幹線開業関連事業引当金 200万円 ・ 西経協総会引当 100万円
予備費/剰余金	14,663,698	17,181,880	2,518,182	翌年度へ繰越
合計	98,523,698	98,449,389	▲ 74,309	